

<晃月スクール第一期卒業生のメッセージ>

●英語コースの生徒たち

スクマ ディニ アマリア

私は、晃月スクールの生徒であったことが幸せであったと思っています。私は、新しいクラスと新しい環境、新しい友達、新しい先生と一緒にレベル1クラスから始めました。

担任はエファ先生でした。彼女は優しく、気が利き、頭の良い先生です。初めの頃の私は他の生徒に比べ英語ができなくて悪い生徒だと思われていたと思います。私はエファ先生の言っていることが分かりませんでした。私は英語の単語を10個も知らなかったのです。

授業の時間は気が滅入っていました。そんな時、私はエファ先生のアドバイスを思い出したのです。彼女は「夢を信じて一生懸命取り組み続ければあなたの夢を達成できる。」と言っていました。より良い未来の人生を得るため、私は変わらなければならないと考えました。

その後、レベル3、4の時、私はメックス先生という新しい先生に出会いました。私は彼から多くの新しいことを学びました。彼は私たちに英語に関することだけを教えるにとどまらず、勇気、意識、自信、楽天的であること、そして一生懸命に生きることを教えてくれました。私たちのクラスは、いつも笑いに包まれ、英語を楽しくそして易しく学ぶことができました。

最後に、晃月スクールの存在は私の家族のようでした。すべての事に感謝します。私は全ての子供たちのために晃月スクールがいつまでも存在することを願っています。

ムティア ラミ

私は、晃月スクールで勉強する楽しい経験を持ってました。私は他の国の友達を作る機会を持つことができました。私は彼らと短い時間でしたが、話をすることができました。

晃月スクールには優しく良い先生がいます。彼らは私たちに教科書の内容だけでなく、多くの国の知識も教え、そのことは私を退屈にさせませんでした。私はまだ外国に行っていないけれども、世界中を周った様に感じさせてくれました。最初、私たちのクラスには25人の生徒がいました。徐々にその人数は減り6人になりました。このことは私に「ラスカーペランギ」の物語を思い出させました。

もう一つ面白い出来事が、晃月スクール3周年記念式典の時にありました。圭司さんが私たちより少し年上の二人のハンサムな青年と一緒に来たのです。私は圭司さんがまたこちらに来られる時は、もっと若いハンサムな少年と一緒に来ることを願っています。もちろん韓流スターに似た。

私は晃月スクールがいつまでも存在し、無くならないことを願っています。私は晃月スクールの生徒であったことを誇りに思っています。

ヌル エビダワティ

私が晃月スクールについて初めて聞いたのは中学1年生の時でした。その時に私の先生は私をこのプログラムに参加するリストに入れました。晃月スクールは、アチェのLCO(ロストチルドレンオペレーション)と日本のPAC(良心、市民の会)によるプログラムです。

私は日本の事を聞いた時、非常に興奮しました。晃月スクールは自由参加の語学コースです。最初私は日本語クラスを選択しましたが、色々考えて英語コースに変更しました。私は一週間にたった3時間なのにも関わらずKSで勉強できることが楽しいです。

レベル1で私たちはエファ先生から学び、レベル2から卒業まではメックス先生から学びました。二人とも非常に素晴らしく、優しく、そしてまた多くの宿題を私たちに与えました。

私にとってKSは私の未来のようです。私は、日本に行くことができ、日本とインドネシア、特にアチェとの多くの違いを見ることができ感謝しています。

私は卒業しましたが、今もKSで勉強しています。もし、私がレベル1の生徒たちと一緒に学ばなければならなくても私は気にしません。大切なことは、私が本当にしっかりとした英語をしゃべれることです。私は他の人たちに英語を教えられるようになりたいと希望しています。私の先生たちが今まで私にそうしてくれた様に。

ムティア ラミ

私は晃月スクールの生徒であることを誇りに思っています。私はこれまで3年間学びましたが、晃月スクールのプログラムはアチェの子供たちにとって非常に有意義です。

晃月スクールで勉強する前より私は英語が話せるようになったと感じています。私たちは英語の勉強以外にも多くの一般的な知識を学びました。晃月スクールの先生たちは非常に素晴らしく、賢明で、幅広い知識を持っています。そして私はここでの勉強に寛ぎを感じていました。

しかし、私は3年間しか勉強をしていません。私はもっともっと英語の勉強をしなければならないと考えています。私が知らないことはまだまだ沢山あります。私は3年間の勉強で英語をマスターするには十分ではないと考えています。私にとって英語は大変重要です。そして晃月スクールは外国語を学ぶ私にとって大変有意義なものです。

私はこのプログラムが終わらないことを強く望んでいます。晃月スクールはアチェの子供たちが外国語を学ぶのにとっても役立ちます。

インダ シャフリアナ

英語を勉強した三年間は長く感じなかったし、それは十分な期間ではなかった。私は、英語を勉強するのが好きで英語を話せるようになることを望んでいるので、英語をうまく話せるようになるまで勉強するつもりです。友達と一緒に勉強ができ、新しい友達と出会い、また日本人とも出会えるので、私にとって晃月スクールは楽しく、生徒であることに誇りを持っています。

私は晃月スクールで勉強している時、とても楽しいです。晃月スクールでの勉強は忘れることのできない経験です。なぜならそれは、私に英語に関する多くの知識を与えてくれたからです。

晃月スクールは、アチェの子供たちを英語や日本語を話せるようにするので、いつまでも存在してほしいと願います。そして私は晃月スクールで勉強することを継続したいと願っています。

私は、PAC、私の先生、そしてLCOの全てのスタッフに感謝の気持ちを伝えたいです。

ラマダナ サトリア

時間の過ぎ去るのは早く、私が晃月スクールで三年間勉強したことを感じさせない。最初にここで勉強したとき、私は英語の単語を知っていましたが、どのように使えば良いかわからず、英語を話せませんでした。誰かが英語で話をしていても理解できませんでした。今は、以前より私の英語は良くなっています。私は晃月スクールで勉強できることが非常にうれしいです。ここで英語を学ぶことは学校よりも楽しいです。

コメント

- 晃月スクールの教育システムは大変良い。
- 教材は生徒たちに理解力を促す。
- 一般的な英語だけではなく、幅広い英語の文脈を学ぶことができる。
- 晃月スクールの先生たちは非常に素晴らしく、賢い。
- 生徒たちが寛いで勉強できる。

メッセージ

私は晃月スクールのレッスンの質を向上させ、英語は今のグローバルな時代に、非常に重要であることを紹介し、このプログラムをいつまでも継続して欲しいです。

このプログラムを通して、アチェの子供たちが外国語を勉強できるようにサポートを継続させていくべきだと思います。

●日本語コースの生徒たち

ハニー イルシャ プルティウイ

私はハニーです。高校二年生です。晃月スクールは日本語が楽しく勉強できる所だと思います。そしてたくさん友達ができたことも良かったと思います。もちろん難しいところがありますが(たとえば漢字やひらがなやカタカナやいろいろな読み方など)晃月スクールの先生たちがやさしいですから、日本語の勉強が楽しくなりました。

晃月スクールの先生は、教える時に良く日本のテレビドラマや、音楽や、アニメなどを使いますから、先生の教え方が好きです。おもしろい友達がたくさんいます。晃月スクールでは日本人の皆さんがよく授業に参加しますから、日本語がだんだんとわかるようになります。私は4級を目指して、同じクラスの友達と一緒に12月にメダンで日本語能力試験を受ける予定です。メダンへ行く前に一所懸命日本語を勉強します。晃月スクールは私にとって決して忘れられない所です。心から感謝しています。

ヨージル アジジ

私はヨージルです。16歳です。高校二年生です。この三年間、たくさん友達ができて、たくさん「良心、市民の会」のメンバーに出会って、たくさん良い思い出ができて、本当にうれしかったです。日本語はなかなか難しいですが、おもしろいと思います。初めて日本語を勉強したとき、よく迷いましたが、今ではだんだんわかるようになって来ました。

私は、日本語力の足りないところがまだまだありますから、もっと上手になりたいです。チャンスがあればぜひ日本で進学したいと思っています。日本語の勉強はこれからです。また、今年の12月、卒業した6人の生徒たちとみんなそろって北スマトラのメダンへ日本語能力試験4級を受けに行きます。

最後に、「良心、市民の会」とLCOのみなさま、この3年間本当に大変お世話になり、ありがとうございました。

サフリジャル

私はサフリジャルです。三年前のことを振り返ると、そのとき日本語が全然わからなくて、今はひらがな、カタカナ、そして少し漢字を書くことができるようになり、日本語もだんだんわかるようになってきて、自分でも信じられなかったです。でも私はもっと一所懸命頑張らなければなりません。

KSで日本人のみなさんに会うことができ本当にうれしかったです。日本人の皆さんが来ると

授業が楽しくなって、そして1年間、なぎさ先生が私たちに日本語を教えてくれたことは一番よかったと思います。

このあいだのKS三周年のパーティーで、PACのメンバーに会って、今まで勉強してきた日本語を実際に使ってみて、自分の言いたいことをうまく伝えられなくて恥ずかしい気持ちもちろありませんでしたが、珍しいチャンスですからおもしろくて良かったと思います。

私の夢はいつか日本へ行くことです。そのために一所懸命頑張ります。最後にPACのメンバー、LCOスタッフとKSの先生、大変お世話になり本当にありがとうございました。

ムルタジ

私はムルタジです。いま高校三年生で17歳です。津波が発生した時、本当に大変でした。生き残ったからこそ、自分が立ち上がっていかなければなりません。私はいろいろなことを学びたいから、晃月スクールに入学することにしました。晃月スクールの生徒になったことは私の誇りです。

初めて日本語を勉強した時、全然わかりませんでした。一步ずつ、ひらがなやカタカナや漢字などが書けるようになって、そして日本のアニメとマンガも読めるようになりました。

三年間いろいろな良い思い出があって、たくさん友達ができたり、いっぱい日本人に出会ったりして、本当にうれしかったです。

日本語はまだまだ上手になりませんが、毎日勉強すれば、いつかきっと上手になると思います。もっと上手になりたいです。時間とチャンスあれば、ぜひ日本の大学で勉強したいと思っています。

日本の皆さん、いつもありがとうございます。これからもよろしくお願いします。

イスナン サフリジャル

私はイスナン サフリジャルです。三年間KSで勉強する間に、たくさんのことをもらいました。例えば、たくさん友達ができたり、外国語の勉強をしたりして、本当に良い経験ができたと思っています。KSは私の第2の故郷のようなものです。KSの先生たちはみんな優しく、何となく家族かのような感じでした。

今、KSには、かわいくておもしろい友達がたくさんいます。このあいだ、日本の方に会った時、楽しかったです。PACのメンバーはみんな親切です。来年もPACのメンバーがKSの誕生日パーティーに来られたら、ぜひ会いたいです。

日本へ行きたかったのですが、残念ながら選ばれなかったので行けませんでした。いつかぜひ、私は日本へ行きたいから、これからもっと頑張ります。いつもどうもありがとうございます。

なぎさ先生によろしくとお伝えください。

ラマヤンティ

ヤンティと申します。高校二年生です。日本を訪問することができたことすごくうれしかったです。このチャンスをいただいてほんとうにありがとうございました。日本のことは私にとってとても良い印象が残っています。子供の頃、日本へ行くなど全然思いませんでした。日本語を勉強することも思いませんでした。KSに通うことになって、良い経験ができました。

日本語は難しいですけども、とてもおもしろいと思います。KSの先生はみんな良い先生ですから、日本語の勉強はとても楽しかったです。この三年間、たくさん友達ができ、たくさん「良心、市民の会」のメンバーに会って、本当にうれしかったです。一番良かったのは、日本へ行ったことです。日本の素晴らしさを実際に自分の目で見て憧れてしまいました。もう一度行きたいです。

ぜひ留学の形で行かせてください。将来、私はプロの日本語教師になりたいですから、上手になりたいです。いつもありがとうございます。

これからもどうぞよろしく願いいたします。

<晃月スクールの先生のメッセージ>

エファ ムティア デヴィ (英語教師)

私の名前はエファ ムティア デヴィです。生徒は私をミセス エファと呼んでくれます。私は晃月スクール(KS)で3年間英語の教師をしています。

KSの先生であることは素晴らしいことです。アチェの他の学校の先生とは違います。KSはアチェの子供たちのためのフリー語学教室です。私は、子供たちを授業に集中させ、楽しませながら分からないことに答え授業を進めています。時々、子供たちは私の家に来て、困ったことの相談をしたり、宿題をしたりしています。

KSが始まったころは、津波の災害後で、全ての事が違ってとても困難でした。多くの生徒は孤児院に、そして何人かは寄宿舎に住んでいました。子供たちにとって、彼らと一緒にいた家族や友人、物が失われたことは簡単なことではありませんでした。3年間彼らと一緒に良い時も悪い時も過ごしました。私は子供たちが将来素晴らしい人になることを心から願っています。

KSの雰囲気はいつも喜びと楽しみに包まれています。日本からお客様が来られた時、「何て楽しそうなんだろう」という生徒たちの表情を見ました。その幸せな時間は、晃月スクール三周年式典で、彼らが色々な演技を賑やかに演じることで、彼らの努力を見せることができた時にやってきました。晃月スクールにおいて、「本当に素晴らしい旅行だった」と言っていた日本行きで彼らは変わりました。

私はベストな先生ではないけれど、私は彼らに私の最善を尽くすように毎日やっています。私は彼らの夢の達成への架け橋になりたいです。「彼らの夢が叶うこと」が私の祈りです。

マクサルミナ（英語教師）

晃月スクールで初めての卒業式が遂にやってきた。三年間学んできた生徒たちは、私に嬉しさを感じると同時に悲しくもあると語っていました。確かに彼らは卒業証書を受け取る日が来ることを喜んでいて、彼ら自身、誇りも感じている。しかし、また彼らは大学に入学するまで晃月スクールで学び続けたいとも私に語っていました。

私は未熟な私の授業を私のクラスで聞かなければならなかった彼らの忍耐強さに敬意を表しています。私は、最初からクラスの雰囲気快適にし、生徒たちと良い関係を築くよう努力しました。全ての事が良い軌道に乗り、いつも私は生徒たちと過ごす全ての時間を楽しんでいました。しかし、その時に私は生徒たちを卒業させなければならなかった。

新しい未来が彼らを待っている。そして彼らがどのような道を選択しても、私は彼らが英語力の向上を続けることを願っています。

ファルロジ（日本語教師）

多くの機関や多くの方々のご支援ご協力のおかげで、8月5日に晃月スクールの3周年を迎えることができました。同時に、晃月スクールは12人の子供たちを卒業生として送り出すことができ、第一期生の3年間のプログラムを終了することができました。

将来に向け、より効率的な活動を行い、より多くの子供たちに外国語を学ぶことのできる環境を作りたいと思っています。そのために、周知の通り、近い将来に多くの子供たちが勉強できる施設である教育センターを建設する予定があり、大アチェ県政府とともに色々な準備を進めています。

この施設が実現できるように張り切って頑張っていきたいと思います。これからも皆様のご支援とご協力をお願いいたします。

サラ ジュマリア（日本語教師）

私は晃月スクール創立時から現在まで参加していることを大変うれしく思っています。今、三年が過ぎ、今後もこの活動が継続することを願っています。

私は晃月スクールでバックグラウンドの違う多くの生徒たちと出会いました。晃月スクールは彼らに日本語と英語を自由に学べる大きな機会を与え、彼らの知識と人格の向上を促進しました。私は全ての生徒たちが良い将来を得て、良い人格を持ち、彼らの家族や彼らの関わる社会に対し良い影響をもたらすことを願っています。

私は、生徒たちが日本語を読み話し、そして書くことができるようになるのを見る時、そしてまた、数名の生徒が日本を訪れる機会を得て、日本の習慣や日本人の勤勉さ、日本の発展への努力を

見て学ぶことができたことがとてもうれしかった。もちろん私はより良い先生、そして愛情に満ちた先生になるために学ばなければなりません。

私は晃月スクールが将来発展することを願っています。私も、晃月スクールのより良い先生であるために勉強を続けます。晃月スクールは私の人生の一部になっています。私は晃月スクールの創立時から今までご支援いただいた全ての方々に大変感謝しています。晃月スクールはアチェに大きなインパクトをもたらしました。

<アチェを訪問した2人のメッセージ>

Alan Sabro Dales Wright (アラン サブロー デールスライト)

2010年8月3日、PAC(良心、市民の会)のメンバー、圭司、永尾夫妻、山本伸次さん、大原医師、李さんと息子の炯植(ヒョンシギ)、そして宮下さんの7名とライオンエアーでBanda Acehに向かいました。彼らに同行できて幸せに思っています。この旅行は、圭司やファルロジさん、他の人々によって、アチェにある語学教室「晃月スクール」の創立3周年と、最初の卒業生を祝う為に企画されました。松川晃月師は参加できない事をとても残念がっていました。しかしながら、彼らは2004年の津波によって町が崩壊されてからずっと学校やその生徒達を援助し続けてきたのです。

この津波は世界的な惨事であり、それが町を襲ってから亡くなった人々の数が日々ニュースで伝えられました。最初は9万人の人々が亡くなったと予想されていましたが、数日のうちにその数は13万人まで膨れ上がり、最終的には25万人と言われました。また災害の余波による病気や劣悪な衛生状態の為、数え切れない人々が亡くなりました。これほどの悲劇的な状況が人々の生活に影響しないわけがありません。

そこで2005年1月、圭司、アデさん(ファルロジさんの兄)、その他の人々が救援の手を差し伸べる為にアチェに渡りました。あふれた水が引き始めた後、本格的に再建設が始まりました。日本において、松川晃月師を中心とするグループ(PAC)が結集され、家族を失った子供たちの為の基金をサポートし、2年後には日本語や英語の語学教室を創設しました。

現地NGOであるLCO(ロストチルドレン・オペレーション)とPACの活動協力の下、200人余りの子供たちの生活が通常に戻るよう救援の手を差し伸べ、教育の場を設ける事によって、彼らにそのための可能性と機会を与えました。LCOとPAC、これら2つの団体は、政府とは関係なく営利目的でもありません。大アチェ県の政府による温かな支援協力のみ受けています。語学教室はその内容において、重要な中等教育としての役割を担っており、その意味で子供たちに課外活動の機会を与えるだけでなく、彼らの学歴においても貢献しています。

このような背景から、LCOやPACの代理、代表としてアチェにやって来ました。到着後、ファルロジさんに会いました。彼は宿泊施設や会合などのスケジュールを組み、連絡のやり取り全般を

担っていました。空港からホテルへ向かう途中、津波の慰霊碑がある場所に立ち寄りました。そこは道路の脇に広がる場所で、とてつもない数のお墓が立てられていると表示されていました。圭司は、身元の分からない遺体を積んだトラックが何台も続いて墓地に入っていくのを思い起こしていました。それゆえ、慰霊碑のある場所には、誰とも分からないまま亡くなった人々が葬られており、そこには英語に訳された古いアチェのことわざが刻まれていました。

Disaster, be patient (災害 耐え忍びなさい)

Comfort, be grateful to God (快適な暮らし 神に感謝しなさい)

More People will be happy (そうすればより多くの人々が幸せになるでしょう)

この碑文は、アチェの新しい現実を映していました。大災害から5年半が経って、少しの安らぎがアチェに現れています。町を復興させようとする努力と同様に、政府と反政府軍との間の恒久的な平和を設置するという形をとって。

その後、私たちは「晃月スクール」を訪問し、卒業生の為の記念式典の準備をしました。私たちが学校の大きなホールに入っていくと、女子達は卒業式で披露するアチェの伝統舞踊の練習を終えるところで、男子達はそのために演奏する曲のリハーサルで忙しそうでした。式典当日は、彼らの準備した、たくさんのフルーツが学校全体を彩っていました。学校の門は花で飾られ、ホールでは旗が翻っていました。生徒たちや大アチェ県のブハリ・ダウド市長をはじめ、地域の政治に携わっている人たち、そしてPAC、LCOのメンバーが参加していました。女子達によって披露された伝統舞踊はとても素敵でした。明るく輝くような赤いアチェの服を身にまとい“Esune Kale”という音楽の響き渡る中、彼らの可憐な手の動きと眩しい微笑が印象的でした。

演説の後、卒業証書が手渡されました。子供たちの喜びやそんな時間を分かち合っているかのように少し興奮気味な永尾理事長が卒業生に証書を渡しました。食事の後、そんなに格式ばる事のない祭礼がはじまりました。寸劇が演じられ、有名な日本の歌が歌われイベントを象徴するようにケーキカットが行われました。次の世代に残す為、生徒達、先生方そしてゲストの方々全員で写真を撮りました。生徒達はとっても幸せそうでした。卒業式は成功に終わりました。とりわけ女子達は、少しとぎまぎしたような感じで炯植や私とセレブのように接していました。それはお世辞を言っているような感じではありましたが。

2、3日後 私たち一行は町やその周りの地域を見て廻りました。私たちは様々な津波の残した光景を目にしました。あるタンカーは海岸から2キロも陸地に引き上げられ、町の中央にある広い場所に取り残され、釣り船は波によって家の屋根の上に残されており、それらはまるで悲劇を物語る美術館のようで観光客の目をひきつけていました。

この旅行のもう一つの大きなイベントはブハリ市長からの食事の招待でした。彼の家では奥様が私たちに食事を用意してくださいました。その日はとてもさわやかな夜で、私たちは色とりどりに飾られ明るく灯された庭のテーブル席に着きました。そこで彼の家族に逢いました。彼らの心温まるもてなしは私たちに特別な思いを抱かせました。用意された食事はすばらしいご馳走でした。

私たちは8月7日にアチェを離れましたが、津波の後、町は想像以上に再建されていると感じました。津波の救援活動により衛生面は向上し、健康的環境を取り戻しつつあり、教育環境は整えられ、市民の生活は立ち直りつつあります。経済的にも良くなってきており、もはや内戦で野外に外出できないような状況はありません。人々の間には希望にも似た雰囲気を感じ取れます。

私が晃月スクールで英語の授業を行った時、子供たちに大きくなったら何になりたいか尋ねました。彼らは、お医者さん、先生、ジャーナリスト、建築家になりたいと答えていました。一人の男の子は次のオバマ大統領になりたいと言っていました。

PACやLCOなどの組織の努力は、この子供たちに大きな影響を与えました。彼らが努力を続けていることを称賛しなければなりません。世界の他の地域で、この良いニュースはメディアに取り上げられることはありません。アチェは良いニュースです。“より多くの人々が幸せになるでしょう”という津波の慰霊碑にあった楽観的な銘刻は本当だと分かった。

李 炯植 (リ ヒョンシギ)

アチェは本当に美しい町であった。アチェのことを何も知らずに訪れたとしたら、数年前に津波の被害に遭い町が崩壊したとは到底思えないであろう。アチェを訪れてまず美しさに目をひかれた。

今回の訪問で現地の人々と交流できたことは非常に良かった。異なる文化・異なる言語を基盤とする人々とさまざまな話をしたが、どれも興味深いものであったし、単純に楽しかった。

晃月スクールの子供たちは非常に人懐っこく、年はあまり変わらないがとてもかわいかった。日本の子供たちよりも子供らしく、目をキラキラさせ、屈託なく笑っていた。人間関係においても、勉強においても積極的で、私にとって非常にまぶしい存在であった。

アチェにはまだ共同体的な人間関係が残っているように思えた。人間関係が希薄である日本で育った私には、アチェの社会が温かく感じられた。今回のアチェへの訪問で自分の生きる環境と全く違った環境を目の当たりにして、人間の本質的な部分を再考させられた。個人的には、自分の人生を立ち止まって一度ゆっくり考えてみるいい機会になった。

今回の訪問に参加させていただきありがとうございました。

「良心、市民の会」事務局より

晃月スクールの初めての卒業式を終えて、晃月スクールで学んだ三年間に対するメッセージを卒業生から頂きました。また、卒業生を送り出した先生方や、卒業式に参列するためアチェを訪問したメンバーを代表して2人の青年からもメッセージを頂きました。日頃ご支援を頂いている皆様の思いが、彼ら、彼女らに充分伝わっている事が読み取れると思います。

私たちは、卒業生たちの素晴らしい将来が実現されることを願っていると共に、卒業生たちとの交流を継続し、地域の発展、後輩たちへの働きかけによるコミュニティの進化が促進される事を願っています。

今後とも皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。